

乳量の秋落ち対策について

夏至以降は日照時間が短くなり泌乳量も低下しやすく、俗に「秋落ち」と呼ばれます。生産抑制下ではありますが、生産状況に合わせて「秋落ち」対策の検討を行いましょう。



その原因は

① 夏バテの影響

夏の猛暑の疲れと暑さで自給飼料などの採食量が減ることで潜在性ルーメンアシドーシスが考えられます。

② ホルモンバランス

日照時間が短くなることで乳牛のホルモンバランスが崩れます。

対策について

① 夜の牛舎内を明るく！

プロラクチンというホルモンは、分泌量が増えるほど泌乳が促進されます。このホルモンは、明るい時間が長い「長日条件」ほど分泌量が増えるため、暗い牛舎や消灯時間の早い牛舎では「秋落ち」しやすくなる可能性があります。

●照明を点灯する時間

目安としては、**16～18 時間を明るく**。(夜の見回り時まで点灯)

その後の時間を **6～8 時間暗く**。(朝の作業時間に合わせて消灯)

*明るさは「**文字を十分読めるくらいの明るさが必要。**」

*明るさが確保されない場合には、**LED投光器** (タイマー設置) などの活用で明るさを確保するように検討しましょう。

②窓や照明の清掃

●窓、牛舎内の清掃

窓が汚れて光が入りにくくなっていたり、牛舎内に蜘蛛の巣がある場合は掃除をしましょう。また、蛍光灯など照明器具が汚れている場合も照度が低下するので清掃しましょう。

③自給飼料の十分な給与

●サイレージは十分ですか？

夜の点灯で採食量もアップします。合わせて飼槽にサイレージが十分確保されているかを確認しましょう。

